

# つるみこくさいこうりゅう 鶴見国際交流ラウンジニュース



Tsurumi International Lounge News

2022・4-6  
No.69

## ～・～ 1月度おしゃべり会の報告 ～・～

外国人にも日本人にも暮らしやすい「多文化共生のまちづくり」を進めている鶴見区。この拠点となる鶴見国際交流ラウンジで開催された1月度のおしゃべり会では、ブラジルのサンパウロ市より1997年に来日、2002年から鶴見に住んでいる鼻田シルビアさんをゲストにお招きして、参加者からのインタビュー形式でたくさんの質問をさせていただきました。今回はその一部を紹介させていただきます。



### 【鼻田シルビアさん】

お仕事のかたわら、潮田地区センターにて週2回“ズンバ”のインストラクターとしても活躍されているシルビアさん。実は、21歳、20歳、17歳、15歳、13歳、10歳の6人の子育てをされているお母さんでもあります。

ほんわかとしたやさしい雰囲気でおっとりとお話される、笑顔がとても素敵な方でした。

### <日本に来ばかりの時困ったことはありますか？>

日本語が全然わからなかったし、文化や習慣もまるでちがったので困りました。まずは、家に入るとき靴をぬぐことやトイレの使い方、甘めの味付けの日本料理など、生活の基本に慣れることから始めました。最初に住んだ静岡県浜松市では外出にも苦労していましたが、2002年に鶴見に引っ越してきて、病院やスーパーなどが近く、自転車でどこにでも行けるようになったので、生活がとても便利です。

### <お子さんが生まれたときに困ったことはありましたか？>

言葉がわからないし、病院の探し方や予約の仕方、診察をうけるまでが本当に大変でした。まだインターネットも使用できなかったのもので、友達にサポートしてもらいました。



### <6人のお子さんの子育てで大変だったことは？>

病気の時は本当に大変でした。近所の病院では、先生が私の話を一生懸命聞いてくれて、簡単な言葉で丁寧に説明してくれたので一人でも大丈夫でしたが、「深刻な病気かもしれない」と心配で大きな病院に行くときは自分一人では不安だったので、区役所で教えてもらった「MIC かながわ」で通訳の方をお願いしていました。一度、自分と子どもたち全員がインフルエンザにかかってしまったことがあり、その時は本当に大変でした。(食事の支度も大変なのでは?という質問に) 食事作りは今の方が子どもたちの好き嫌いが多く大変です。小さい時はなんでもたべてくれたのに(笑)

## <お仕事と子育て、両立は大変だったのでは？>

子どもがまだ小さい時から保育園にあずけて仕事を始めましたが、全員が同じ保育園に入らず、送り迎えが大変でした。また洗濯物が多くて、お天気が悪い時はコインランドリーを利用していました。

## <どうやって日本語を学びましたか？おうちでの言語は？>

自分で日本語を勉強しようとしたことはありません。子どもたちが保育園に行くようになり、そこで覚えてきた日本語から自分も少しずつ日本語を学ぶようになりました。そのため、むすこが「ぼく」というので、自分も「ボク」と言ってしまったことがあります（笑）

お話しする勇気がなくて、日本人のお母さんたちとはあまり親しくなれませんでした。その当時は、差別されるかな、誤解されたらどうしようという気持ちがありました。でも今はズンバの生徒さん達と忘年会や新年会、誕生日会など、一緒に食事に行く機会もあり、日本人との交流も増えました。

子どもたち同士は家で日本語を話します。私がポルトガル語で話しかけると、日本語で答えが返ってきます。最近は私が仕事で使うスペイン語で話すこともあり、ポルトガル語、スペイン語、日本語が飛び交っていますが、時々、家族全員、意味がわからなくて、ネットで翻訳しながら会話することがあります（笑）



左：今回の通訳をしてくれたラウン

ジスタッフのともださん

## <ブラジルといえばサッカーですが、お子さんはサッカーをしていた？>

息子たちは小・中学校時代にはサッカーをしていました。パパは地域の子供たちにサッカーを教えていたこともあります。娘たちはダンスが大好きです。

## <日本の子育てとブラジルの子育て、違いを感じますか？>

ブラジルの家庭ではその日あったことなど、家族みんながたくさん話しをします。子供たちの反抗期もありましたが、お互いにたくさん話しをしてきました。

また、日本では子供同士の喧嘩やトラブルがあったとき、親は学校を通して話をするようになっていきます。最初はそれがわからなくて、逆に注意されたことがありました。ブラジルでは何か問題がおければ、当事者同士が直接話すのが一般的ですし、他人の子供であっても周りの大人が注意し、叱ります。



## ～ インタビューを振り返って ～

沖縄にルーツをもつブラジルの方が多く住む鶴見。シルビアさんも同様で、過去にはご自分のルーツを探るため沖縄を訪れたこともあるそうです。そんなシルビアさんにとって鶴見という町は大変住みやすく家族や友人と楽しく毎日を過ごす場所。30年前に来日した当時と比べると、最近はポルトガル語に翻訳された行政の資料なども増えてより生活が便利になったそうです。

「日本が大好きなので、これからもずっと日本で生活していきたい」と笑顔でお話しされていたのが印象的でした。



# 【特集】鶴見図書館に行ってみよう!

あそびにきてね♪



つるみとしょかん  
鶴見図書館のマスコット「つるぼん」↑

## ■ 鶴見図書館はどんなところ?

誰でも自由に本を読むことができます。また、図書館カードを作って、本を借りることもできます。お金はいりません。

図書館には、日本語の本のほかに、外国語の本もあります。

英語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語、ポルトガル語などです。外国語の絵本もあるので、親子で楽しむことができます。また、日本語を勉強する本や、日本についての本もあります。新聞や雑誌、地図もあります。パソコンもあるので、インターネットで調べることができます。

## ■ 本を借りる・返すには

最初に図書館カードを作ります。自分の名前と住所がわかるものをもってきてください。

図書館カードは、5年間使えます。

本は、1人10冊まで、2週間借りられます。

借りる時は、図書館カードを持ってきてください。

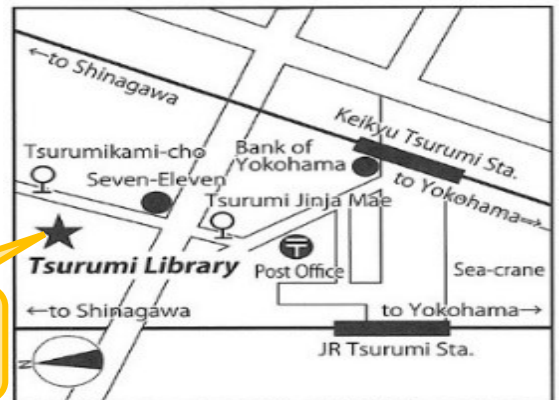
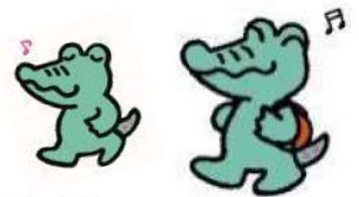
返す時は、本だけをカウンターに出してください。図書館が閉まっているときは、

外にある「返却ポスト」に入れてください。

鶴見図書館にない本は、6冊まで予約ができます。

予約はカウンターや電話、インターネットでできます。

その他にも、電子書籍が読めるサービスもあります。



ここにあるよ!

## ■ 鶴見図書館について

住所 鶴見区鶴見中央2-10-7

電話 045 (502) 4416

※わからないことがあれば、いつでもラウンジに相談してください。



← 鶴見図書館の  
ホームページ

編集・発行：鶴見国際交流ラウンジ情報部会 URL <https://www.tsurumilounge.com>

横浜市鶴見区鶴見中央1-31-2 電話045-511-5311 ファックス 045-511-5312

猪瀬朝子、井上愛子、伊賀久美子

翻訳：安部香代子、長井美春、小峰麗、申水貞、石原みどり、長谷川スーサン